

交通安全の教育・普及活動

Hondaは、ハード、ソフトの両面から交通安全を推進しています。
先進技術を活用しながら、クルマに乗っていない人の安全も
視野に入れた商品づくりに取り組むとともに、
地域社会のニーズにあわせた交通安全の教育と安全運転の普及活動を通じて、
より豊かなモビリティ社会の実現をめざしています。



Together for Tomorrow





交通安全キャラバン

幼い子ども達のための交通安全教室

Hondaは、より豊かなモビリティ社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを行っています。中でも子ども達を交通事故から守ることは、重要なテーマのひとつです。Hondaは、人間形成に大きな影響を与える幼児期から交通安全の基本を身につけてもらうことが大切であると考え、1999年に未就学児を対象とした「交通安全キャラバン」をスタートさせました。関東地区から始まった活動は、2003年に鈴鹿、浜松、翌年には熊本、栃木の事業所周辺でも開始。年々、訪問園数を増やし、2007年度は641の幼稚園・保育園を訪問しました。

見て、聞いて、話して、体験するプログラム

交通安全キャラバンの特徴は、トレーニングを積んだ俳優が進行役をつとめ、子ども達を飽きさせないさまざまな工夫がされていること。プログラムはまず、名作絵本を子ども達に読み聞かせることから始まります。さまざまな声と迫力満点の演技で子ども達はどんどん物語の世界へ。集中力が高まったところで、Hondaオリジナルの教材「あやとりい ひよこ編[※]」を使った交通安全のお話に移ります。ただ話して聞かせるのではなく、クイズなどで対話しながら子ども達から答えを引き出すよう進行。何度も復唱し、身振り手振りの動作も加えて交通ルールを覚えたあとは、ミニチュアの信号機と横断歩道を使って、実際に横断してもらいます。こうした一連のプログラムにより、子ども達は楽しみながら交通ルールを体で覚えることができます。

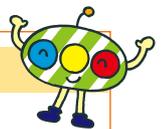
※「あやとりい ひよこ編」は、「あんぜんを」「やさしく」「ときあかし」「りかいしていただく」、4～5歳児が対象の交通安全教育プログラムです。

交通安全キャラバン



プログラム構成

- 1 名作絵本の読み聞かせて、集中力アップ
- 2 「あやとりい ひよこ編」を使って、交通安全のお話
- 3 ミニチュアを使って、体験学習



●活動実績

(年度)	訪問園数	参加人数
2005	340園 (46,186名)	
2006	590園 (76,329名)	
2007	641園 (76,401名)	

※()内は参加人数

●2007年度内訳

事業所	訪問園数	参加人数
本社	480園	58,251名
鈴鹿	40園	3,964名
浜松	40園	4,860名
熊本	41園	4,566名
栃木	40園	4,760名
計	641園	76,401名

(財) 国際交通安全学会

IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences)

(財)国際交通安全学会(IATSS)は、交通社会の課題や将来のあり方について社会的視野に立ち、自由に討議・研究する場として1974年にHondaの創業者・本田宗一郎、藤沢武夫両氏およびHondaの基金をもとに設立されました。さまざまな分野のトップに立つ有識者を会員・顧問に迎え、「交通とその安全」、さらにはそれらを取り巻く地域社会に関する調査研究を実施。研究報告会の開催や政策提言、広報出版、交通社会の発展に寄与した業績に対する褒賞、国際交流など、時代の要請に先がけた事業活動を展開しています。

1985年に設立された「IATSSフォーラム」は、将来のASEAN諸国の発展に貢献できる若者を招請し、“Thinking and Learning Together”をモットーに、広く社会全般の文化や日本について学んでもらう国際交流

プログラムです。各種セミナーやフィールドワーク、地域国際交流など幅広い分野の講座や活動を行い、参加研修生が互いにASEAN諸国について理解し、ASEANと日本の現在の課題に取り組む場を提供しています。



IATSSフォーラム

交通に関わるすべての人の安全のために

安全運転普及活動

Hondaは、より豊かなモビリティ社会の実現に向け、1970年に安全運転普及本部を設置し、運転する人はもちろん、歩行者や自転車利用者などすべての人を対象にした教育・啓発活動や、交通安全教育ソフトや各種シミュレーターの研究開発と提供など、さまざまな活動に取り組んでいます。

全国8ヵ所にある交通教育センターでは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方を対象にした交通安全教育を実施。さらに、安全運転指導者の養成や、企業・団体向けの研修会も展開しています。2007年8月には、交通安全を取り巻く環境の変化やお客様のさまざまなニーズに対応するため、鈴鹿サーキット交通教育センターが生まれ変わりました。多発型・致死率の高い事故の減少に焦点をあてること、気づきによって行動変化を促すことなどの特徴を備えた、新しい4つの教育プログラム

を追加。研修コースを改修して、より効果的・実践的な研修ができるようになりました。また、危険予測能力や、車の新しい安全デバイスの効果と限界を正しく理解していただくことを目的とした、新しい教育プログラムの研究・開発や、交通安全に関する、生涯教育の地域への普及にも力を注いでいます。そして、お客様や地域の方々に安全運転を伝える活動は、海外33カ国にも広がっています。



新しくなった研修コース



● 全国8ヵ所の交通教育センター

- ・ アクティブセーフティ トレーニングパークもてぎ
- ・ 交通教育センターレインボー和光
- ・ 交通教育センターレインボー埼玉
- ・ 交通教育センターレインボー浜松
- ・ 交通教育センターレインボー浜名湖
- ・ 鈴鹿サーキット 交通教育センター
- ・ 交通教育センターレインボー福岡
- ・ 交通教育センターレインボー熊本



ファーマー安全運転コンテスト

ホンダベトナムカンパニー・リミテッド/Honda Vietnam Co., Ltd.

すぐに役立つ運転情報を盛り込んだプログラム

ホンダベトナムは、2006年度に引き続きベトナム各地で「ファーマー安全運転コンテスト」を開催しました。2007年5月から9月にかけて、前年度の計7回を上回る計9回のコンテストを9つの省で実施。中央農業組合、国家交通安全委員会、そして各省の農業組合と交通警察署の協力のもとで行われ、国内各地の参加者からも高い評価をいただきました。このイベントは、ベトナム全人口の70%近くを占める農業に従事する人々を対象としています。2007年度は成功した前年度の手法を引き続き採用。どのプログラムにも、すぐに活かせる運転全般に関する情報を盛り込み、そうした情報を積極的に求める人々が、熱心に参加しました。



2日間で交通についての講習やコンテストなどを実施

初日は、各省の交通警察が、交通規則や二輪安全運転のルールについての講習を実施。以前には、このような講習は農業に従事する人まで十分に行き届かなかったこともあり、参加者達はこの機会に学びたいという真剣な姿勢で臨んでいました。2日目の午前中は、ヘルメットを着用し、地元の人々が観覧する中、隊列走行に参加。その後の開会式では参加者達が、運転中に起こる問題と対処方法をユーモラスに盛りこんだ手作りの劇を上演しました。午後には、交通規則に関するクイズ、平衡感覚テスト、三角コーンを回るコース走行テストなどの

チーム対抗コンテストを開催。夕方には決勝戦が行われ、運転シミュレーションに基づいたクイズで上位3チームが競い、会場は熱気であふれました。

ベトナムのモビリティ社会に貢献する活動をこれからも

コンテストだけでなく、バイクのメンテナンスや環境問題などの意識向上を促す数々のメニューも用意。サービスコーナーでは、Hondaの従業員が、メンテナンスに関するアドバイスや、バイクの無料整備、低価格のオイル交換などのサービスを提供。また、Hondaの環境保全への取り組みのひとつとして、

参加者全員による植樹も行いました。参加者からは、ニーズを捉えたイベントであるという反響が多く寄せられ、今後も活動を続けていくことが望まれています。Hondaの従業員も、このイベントによる効果の大きさを実感。Hondaは今後も、安全なモビリティ社会への貢献のひとつとして、地域と密に協力し合い、ベトナムの明るい未来づくりに貢献していきます。

